



かないひがしうら 金井東裏遺跡

よろい

甲を着た古墳人だより

特集

平成 25 年 10 月



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺跡の概要

金井東裏遺跡は、国道 353 号金井バイパス（上信自動車道）の建設に伴い、平成 24 年 9 月から公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行っています。

榛名山は古墳時代後期の 6 世紀代に 2 回の大きな噴火を起こしました。火口から 8.5km に位置するこの遺跡では火山灰や軽石が厚く堆積しています。

平成 24 年 11 月、6 世紀初頭に噴火した榛名山二ツ岳の火山灰（Hr-FA）の中から、甲を着た古墳人の骨や乳児の骨などが発見されました。さらに、成人女性や性別不明の頭蓋骨のほか、古墳人の足跡が発見されました。

古墳時代の人々が甲を装着した状態で発見された例は全国で初めてで、火山灰の中から人骨が出土したことも全国初です。現在も発掘調査は継続中で、多量の土器が積み重ねられた祭祀遺構、平地建物、5 世紀後半の古墳などを調査しています。

甲を着た古墳人の概要

今回発見された甲を着た古墳人の骨や乳児の骨および甲は、6 世紀初頭の火山灰で埋没した幅 2 m、深さ 1 m ほどの 31 号溝の中から出土しました。甲を着た古墳人ともう一領の甲（2 号甲）は、溝の底から 10cm ほどの高さで出土し、また乳児の骨は溝の北側の壁寄りの位置で出土しています。両方とも同じ火砕流堆積物で埋没していることから、同時期に被災したと考えられます。

甲を着た古墳人の甲は、背中側を上にして出土しており、高さ 60cm、幅 50cm とやや寸詰まりの状態、草摺（くさずり）が上にずり上がった状態と考えられます。また、この甲は破片断面に長さ約 5 cm、幅約 2 cm、厚さ 1 mm の小鉄板が重なり合う状況から、小札甲（こざねよろい）と判断されます。人骨の遺存状態は良好であり、骨格から成人男性とみられ、身長は大腿骨から 163cm と推定されます。

乳児骨については、頭部の一部が残存し、大きさと骨質から生後数ヶ月の乳児のものと考えられます。



金井東裏遺跡・榛名山二ツ岳位置図

● 榛名山二ツ岳火山灰（Hr-FA）

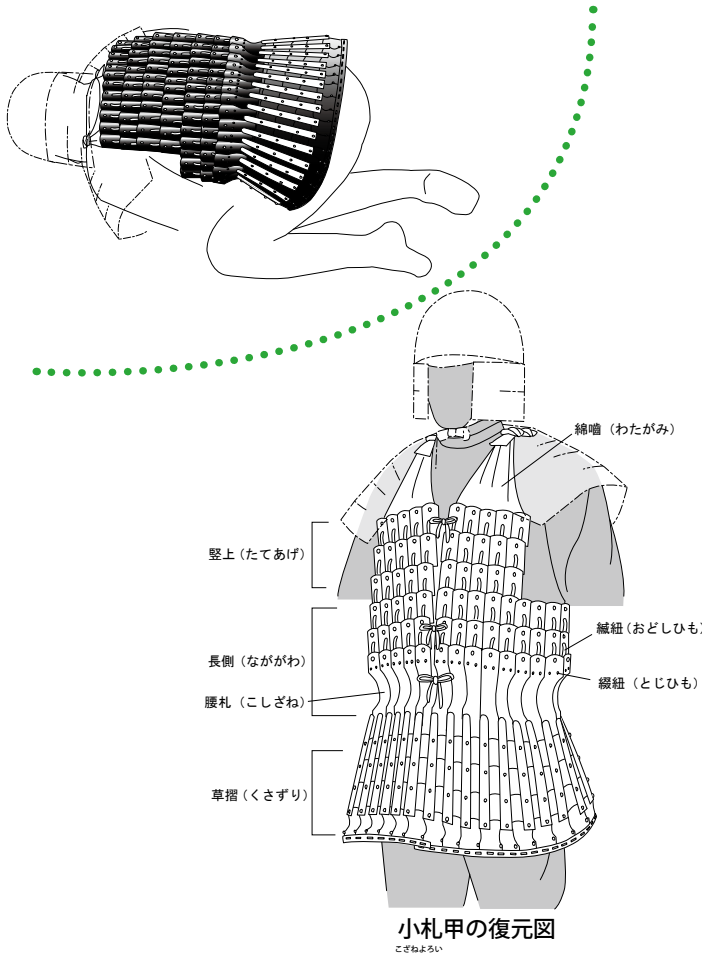
古墳時代後期の 6 世紀初頭に噴火した、榛名山二ツ岳の火山灰。細粒の火山灰、火砕流堆積物、軽石などからなる 15 層のユニットが確認されている。金井東裏遺跡では、約 30cm の堆積が認められる。給源から東～南東の方向に火山灰を降下させている。県指定史跡の中筋遺跡（渋川市）は、この火山灰で埋没した集落遺跡である。

● 榛名山二ツ岳軽石（Hr-FP）

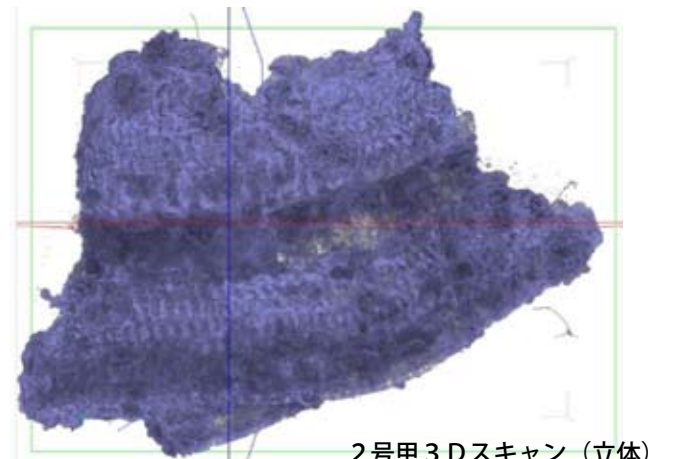
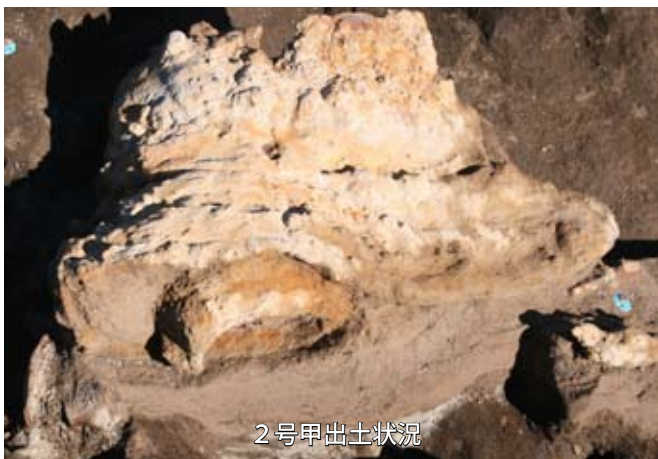
古墳時代後期の 6 世紀中頃に噴火した、榛名山二ツ岳の軽石。主に軽石からなる 19 層のユニットが確認されている。金井東裏遺跡では、約 2 m の堆積がある。給源から北東の方向に軽石を降下させている。国指定史跡の黒井峯遺跡（渋川市・旧子持村）は、この軽石で埋没した集落遺跡である。



31号溝検出状況



2号甲の概要



溝の上流側から出土した2号甲も小札甲で、CTスキャンによって、腰札より上に7段・腰札1段をはさんで、草摺部分が5段あることが分かりました。小札の重ね合わせ方は段により異なります。

3号 (成人女性)・4号人骨の概要

3号人骨は頭部を東側に、左脚を軸に反時計回りに回転して、うつ伏せに倒れていました。大腿骨から推定すると身長143cmの成人女性で、首飾りとみられる管玉・ガラス丸玉も出土しました。成人女性の人骨も31号溝の上流から出土しました。甲を着た古墳人や乳

児の骨と同じく、6世紀初頭の火砕流により埋没しています。

性別や体の位置は不明ですが、3号人骨から北西方向約13mの位置から4号人骨が見つっています。



3号人骨出土状況



頭蓋骨と右上腕骨



首飾りの管玉



4号人骨出土状況

古墳人の足跡の概要

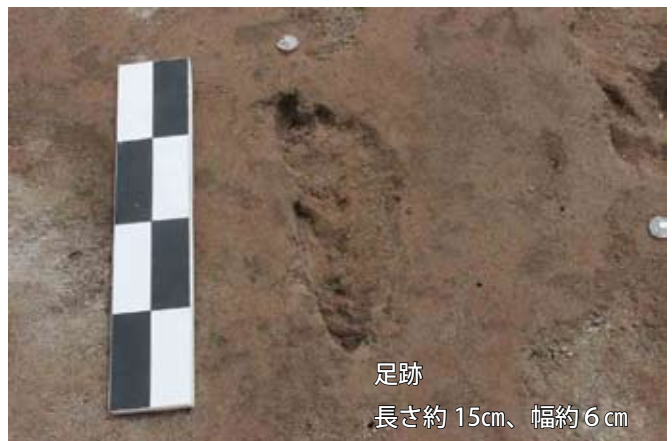
甲を着た古墳人などが見つかった地点から南へ約110m離れた場所から、Hr-FAによって埋もれた道の上を歩いていた、約1,500年前の人の足跡や馬の蹄跡ひづめなどが見つかりました。道の周辺では、これまでに古墳人の足跡は114個、馬の蹄跡は29個見つかりました。足跡は約11cm～25.5cmの長さで、足の指痕が残るものが多く、榛名山を背に東の方向に複数の人が歩いていたことがわかっています。火山灰が降下したあとの人々の行動の復元ができる資料となります。



足跡の検出状況



足跡
長さ約24cm、幅約10cm



足跡
長さ約15cm、幅約6cm

平地建物の概要



古墳人の足跡や馬の蹄跡が見つかった道から北側に約 15 m 離れた位置から平地建物が 2 棟検出されました。左の写真は 1 号平地建物です。平地建物の周囲には Hr-FA の最初の噴火に伴う火山灰が堆積していました。しかし、建物の内側にはこの火山灰が見られないことから、最初の火山灰が降下したときには平地建物の上屋がまだあり、その後に発生した火砕流によって上屋が壊されたと考えられます。平地建物の内部には、かまどや炭化した建築材などが残存しています。

祭祀遺構の概要

Hr-FA の下からは、祭祀遺構が発見されました。右の写真は 3 号祭祀で、土師器と須恵器の甕が「コ」の字状に並べられ、大量の杯つぎが重ねられていました。出土した土器はこれまでに 300 点以上となり、重ねられた杯の中には、管玉、ガラス丸玉、白玉などの玉類のほか石製模造品、鉄製品などが入っていました（写真右下）。周辺からは鉄斧や鎌などの鉄製品や石製模造品も出土しています。



古墳の概要



Hr-FA の下から古墳が検出されました。墳丘は、径約 15 m、高さ約 2.5 m、周堀の幅約 5 m で、周堀の深さは 90cm で、築造された時期は、5 世紀後半と考えられます。墳頂部およびテラス部分には埴輪が置かれた痕跡はなく、周辺からも埴輪の破片は出土していません。墳丘には葺石ふきいしがみられますが、火砕流によって一部が削られていました。今後は、墳頂部を掘り下げて埋葬施設などを詳しく調査する予定です。